

営々たる崇仁のまちづくり 3

～京都駅東かくあるべし、エリアマネジメント～

営々たる崇仁のまちづくりの取組を振り返り、今まさに始まろうとしている、京都市立芸術大学を核とした、京都駅東エリアにおける多文化共生、国際交流のまちづくりについて考えてみたいと思います。



写真：柳原小学校砂持ち(1909(明治42)年)(崇仁自治連合会蔵)



写真：工事中の七条大橋(1912(大正元)年)(京都市歴史資料館蔵)



企画展示 入場無料

期間：3月4日(水)～3月29日(日)

時間：午前10時～午後4時30分

場所：柳原銀行記念資料館

※月曜日、火曜日、祝日は休館します。

また2月27日～3月1日、4月1～2日

は展示替えのため休館します。

記念シンポジウム「七条界隈の歴史と文化」^{かいわい} 入場無料

日時：3月14日(土)午後5時30分開演(午後5時開場)

場所：下京いきいき市民活動センター 3階集会室

報告：山内政夫(NPO法人崇仁まちづくりの会理事)「地域ブランドについて」

中村伸之(立命館大学非常勤講師・京都景観フォーラム理事)「七条大橋物語」

※定員60人(先着順)



背景画像：NPO法人京都景観フォーラム作成(一部)

主催：京 都 市
NPO法人 崇仁まちづくりの会
協力：NPO法人 京都景観フォーラム

同じです あなたとわたしの 大切さ
平成27年2月発行
京都市文化市民局市民生活部人権文化推進課
京都市印刷物 第264881号

この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！



営々たる崇仁のまちづくり

～京都駅東かくあるべし，エリアマネジメント～

2014 (平成26) 年1月，京都市は，京都市立芸術大学（以下「芸術大学」という。）を，現在の西京区洛西地域から下京区崇仁地域に移転整備することを発表しました。この度の移転整備は，芸術大学だけでなく，崇仁自治連合会をはじめとした移転先の地元住民からも要望書が市に提出されており，また，市も，芸術大学の発展や京都全体のまちづくりに貢献すると認められること，崇仁地域の将来ビジョンに合致することなどの理由により，方針決定に至ったものです。

こうした市の発表を受け，2014 (平成26) 年9月，芸術大学を「創造・交流・賑わい」の核として，移転までの10年間のプロセスを大切にしたまちづくりを進めることを目的として，崇仁自治連合会をはじめとした地元団体，芸術大学，市，民間アドバイザー等で構成する「京都市立芸術大学を核とする崇仁エリアマネジメント※」が正式に立ち上げられました。

人口減少，高齢化が進行した地域の活性化やコミュニティの再生，地域ブランドの創生に取り組むため，同エリアマネジメントによる，住民主体のまちづくりが進められようとしており，京都の玄関口・京都駅の東地域に，文化を創造し，国際的に多彩な人が交流し，まちが賑わい，世界に発信する「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンが創生されます。

さて，今回の企画展では，一昨年度に開催した企画展，昨年度に開催した特別展に引き続き，現在進められているまちづくりに至る「営々たる崇仁のまちづくり3」として，時代を約100年遡り，七条大橋の建設や塩小路通の開通が京都の近代化や崇仁及びその周辺の地域の活性化に果たしてきた役割を改めて検証します。

とりわけ七条大橋は，1913 (大正2) 年，京都の近代化の3大事業の一つである市電を敷設するために建設されましたが，単に人の移動だけでなく，物流の大動脈としての役割を担うこととなりました。また，文化財的な価値も高く，当時の意匠を残す鴨川最古の橋として，将来にわたり保存していくとする運動も進められています。

崇仁地域とその周辺のまちづくりにおいて重要な役割を果たしてきた，これらの代表的な施設を通して，これまでの取組を振り返り，今まさに始まろうとしている新たなまちづくり，芸術大学を核とした，多文化共生，国際交流のまちづくりをどのように進めていくべきかについて考えてみたいと思います。

※エリアマネジメントとは，地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための，住民，事業主，地権者等による主体的な取組を言います。

2015 (平成27) 年2月

京 都 市
NPO 法人 崇仁まちづくりの会